

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

『来週から10月ですね』

校長 高橋 励

朝、7時55分。正門前に集まる人の数は、9月はじめにくらべて少し増えています。でも、以前とくらべて大きく違うことが一つ。だれ一人、門によりかからず、横一列に前を向いて、静かに待っています。ハチドリのセリフ「私ができることをしているだけ」が聞こえてきそうなようです。

わたしは、学校に入るみなさんに、できるだけ大きくない声で「おはよう」とどけながら、ときおり「お鼻しまってから入りましょう」と声をかけています。このひと月で、門までくると条件反射のようにマスクを整える人もいれば、となりを歩くおともだちに「ハナ入れよう」って声をかけてくれる人もいます。551人の郷小Kidsのほとんどの人は「わかってます！鼻までマスクは当たり前！」という感じです。

先日の「郷小だより」で、水道ポンプ故障の日のようすをおうちの方にもお伝えしましたが、いつもであれば使えている水道やトイレが使えない不自由ななかで、それぞれ「私ができること」を考えた一人ひとりの行動が、結果としてステキに輝いて見えたということでしょう。「私は、私にできることをしているだけ」と、思える人た

ちが、この学校でたくさん暮らしているのだなあと思うと、とてもたのしい気持ちになります。

さて。夏休みの終わりと同時に、コロナの感染状況を気にしながらの学校生活が始まり、間もなくひと月が経とうとしています。郷小Kidsのみなさんには、きゅうくつな生活をお願いしてきました。

予定では、10月が来る前に、緊急事態宣言が解除されます。心配が完全になくなるわけではないけれど、来週からまた少し本来の学校生活に戻していきます。

・給食のしたくは、給食当番が一部復活します。(手洗いは完璧に！)

※給食委員の片づけ手伝いは、もうしばらくお休みのままです。

・そうじは、工夫をしながら再開します。

・朝はしずかに過ごします。外遊びや室内遊びはもう少しがまんです。

先生たちの願いは、あなたが安心して毎日を学校で健康に過ごせること。みんなでお互いに「今できること」を考えていきましょう。

「調査へのご協力ありがとうございます」 ～ご家庭のみなさまへ～

いわゆる「オンライン授業」と呼ばれる実践のようすが報道されていますが、その取り組みの背景はさまざまです。現在、茅ヶ崎市は通常日課で登校し、学校での学習活動を中心に据えて、子どもたちの日々を直接確かめながら学校教育を進めています。ただ、新型コロナウイルスへのこれまでの対応を考えると、一斉休業への備えを進める必要性を感じます。

先日お知らせしたオンラインによる欠席連絡の方法も、今後、万が一、感染者の急増などにより自宅での経過観察が多くなるなどした場合に、限られた電話回線にしばられず、ご家庭からの連絡をスムーズにするために試行しているものです。

さて、学校からお願いしたご家庭のWi-Fi環境調査への回答は、22日現在で495/551人となっています。(回答の重複が61件ありました。新しい道具は、使い方に慣れるまでは、お互いに辛抱が必要ですね)また、実際にオンラインで全家庭をつなぐ必要がある場合に、学校で使用しているiPadを事前に持ち帰りたいという希望が135件ありました。



加えて、接続環境を整える必要があるご家庭(9件)については、通信会社との契約をしていただく必要も出てきます。

子どもたち(高学年は特に)は、授業の中でロイロ・ノートなどを使ってお互いの考えを見合ったり、取り組んだ課題をオンライン上で提出してみたり、先生が提示した資料をタブレットで見たりと、様々な場面使っていますので、臨時休業など家庭での自主学習が必要となった場合でも、インターネットにつながる環境があれば、指示や課題を受け取った

り提出したりという活動はできるでしょう。

ただし、オンラインでつながれば何でもできるわけではありません。道具の扱いについては、子ども一人ひとりの成長の段階や得手不得手もありますので、低学年になるほど、家庭で一人で取り組むことへの難しさは生じやすくなると思われます(だからこそ、先生も子どもたちも同じ場所でともに学ぶ「学校」の意義があるのでしょう)。



今は、「すぐにはできないこと」の中から、「できること」と「できないこと」を整理する時期とらえています。すべて同じ条件にそろえることはなかなか困難です

が、各ご家庭のご理解とご協力をお願いいたします。

なお、学校の取り組みへのご意見のなかに、「授業の視聴が家庭でできるようにしてほしい」というものがありました。ニーズとしては理解できますし、技術的には可能です。ただし、これは、子どもたち一人ひとりの生活のようすを、世界のどこにいてもみることができ環境を作るということにもなりますので、その扱いについては丁寧に整理する必要があると考えます。

茅ヶ崎市のGIGAスクール構想では、令和4年度にはタブレット持ち帰り実施の見通しが示されています。いずれ、お子さまの人権を守りながら運用するための留意点を整理してお伝えできればと思いますが、しばらくお時間をいただきます。